

# 雲仙岳周辺の地殻変動\*

## Crustal Deformations around Mt. Unzen Volcano

建設省国土地理院  
Geographical Survey Institute

第1図～第3図は、雲仙地区GPS連続観測の結果を示したものである。辺長については観測全期間と最近約1年間を、比高については最近約1年間の観測結果を示した。

辺長の観測結果（全期間、第1図）をみると仁田峠―礫石間に縮み傾向がみられる。他の辺長については、特に変化はみられない。比高の観測結果については、仁田峠の隆起傾向がみられる（第3図）が、この比高変化と水蒸気圧の変化（雲仙測候所による）を比べると逆の相関関係が認められる。このため、仁田峠が隆起傾向という結果は、水蒸気圧の変化を反映している可能性が大きい。

第4図は、島原半島及びその周辺地域各験潮場間の月平均潮位差を示したものである。口之津―三角の平均潮位差は、1993年後半に異常な値を示した後、口之津（島原半島側）の沈降が停滞気味である。

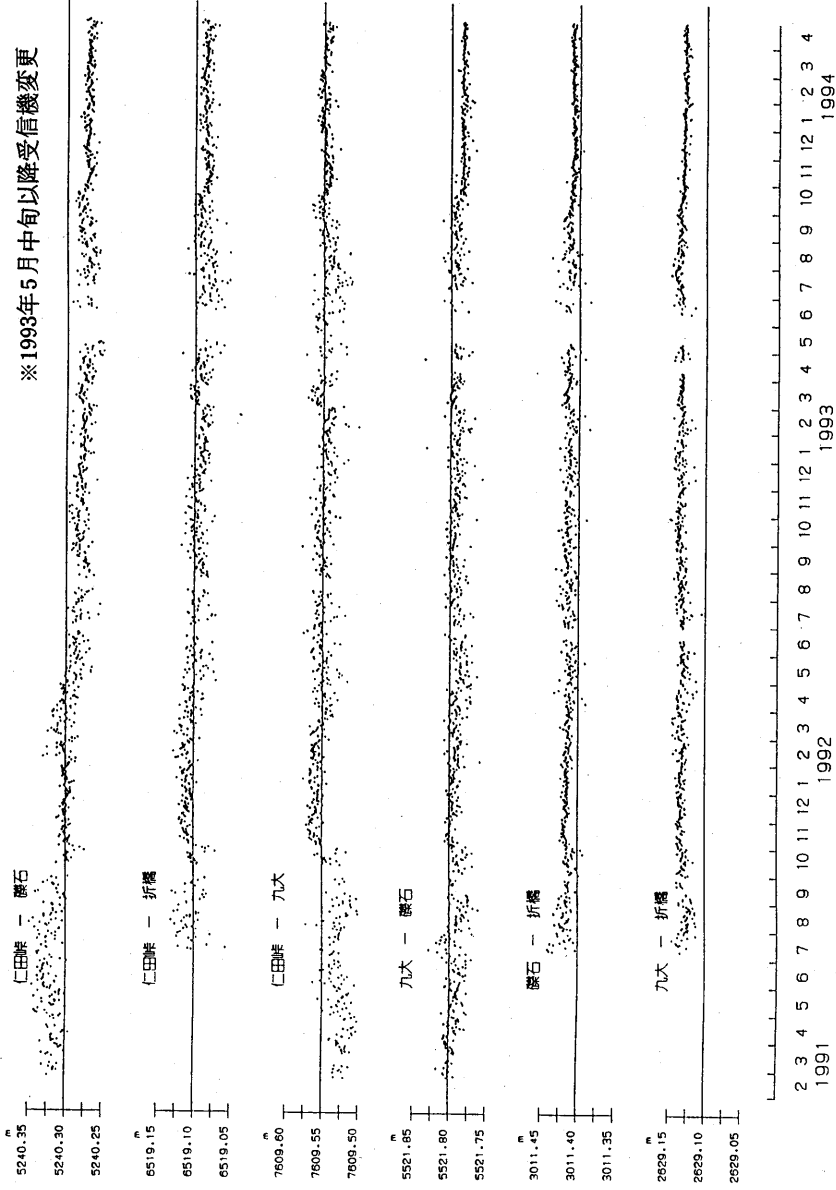
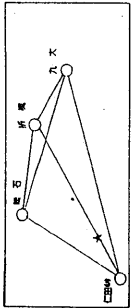
---

\* Received 1 Aug., 1994

雲仙地区GPS連続観測結果(辺長)

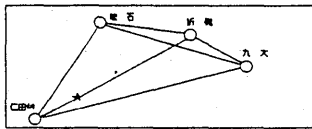
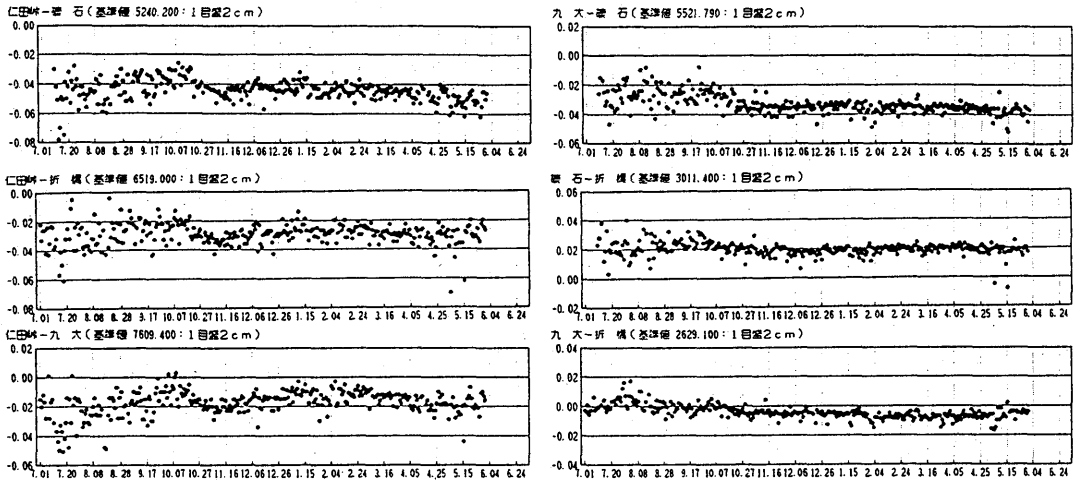
建設省国土地理院

※1993年5月中旬以降受信機変更



第1図 雲仙地区GPS連続観測結果(辺長)

Fig. 1 Continuous distance change observation with GPS at Mt. Unzen



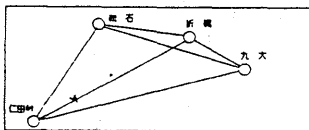
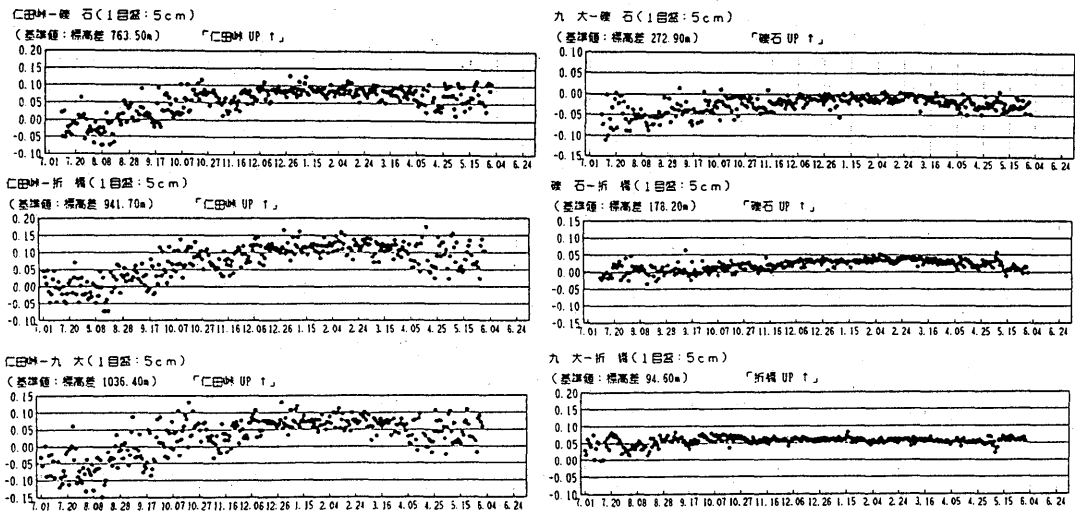
(最終観測 1994年 5月 31日 1時 - 7時)

1994年5月12日より6時間の観測を実施  
 GPS受信機: TRIMBLE-4000SSE (93.5.12~)  
 基線解析ソフト: Triavac Plus (Rev. E) 10月下旬より1点を固定し計算 (FIX解採用)  
 Triavac Plus (Rev. E) 94年5月12日以降

建設省国土地理院

第 2 図 雲仙地区GPS連続観測結果 (辺長)

Fig. 2 Continuous distance change observation with GPS at Mt. Unzen



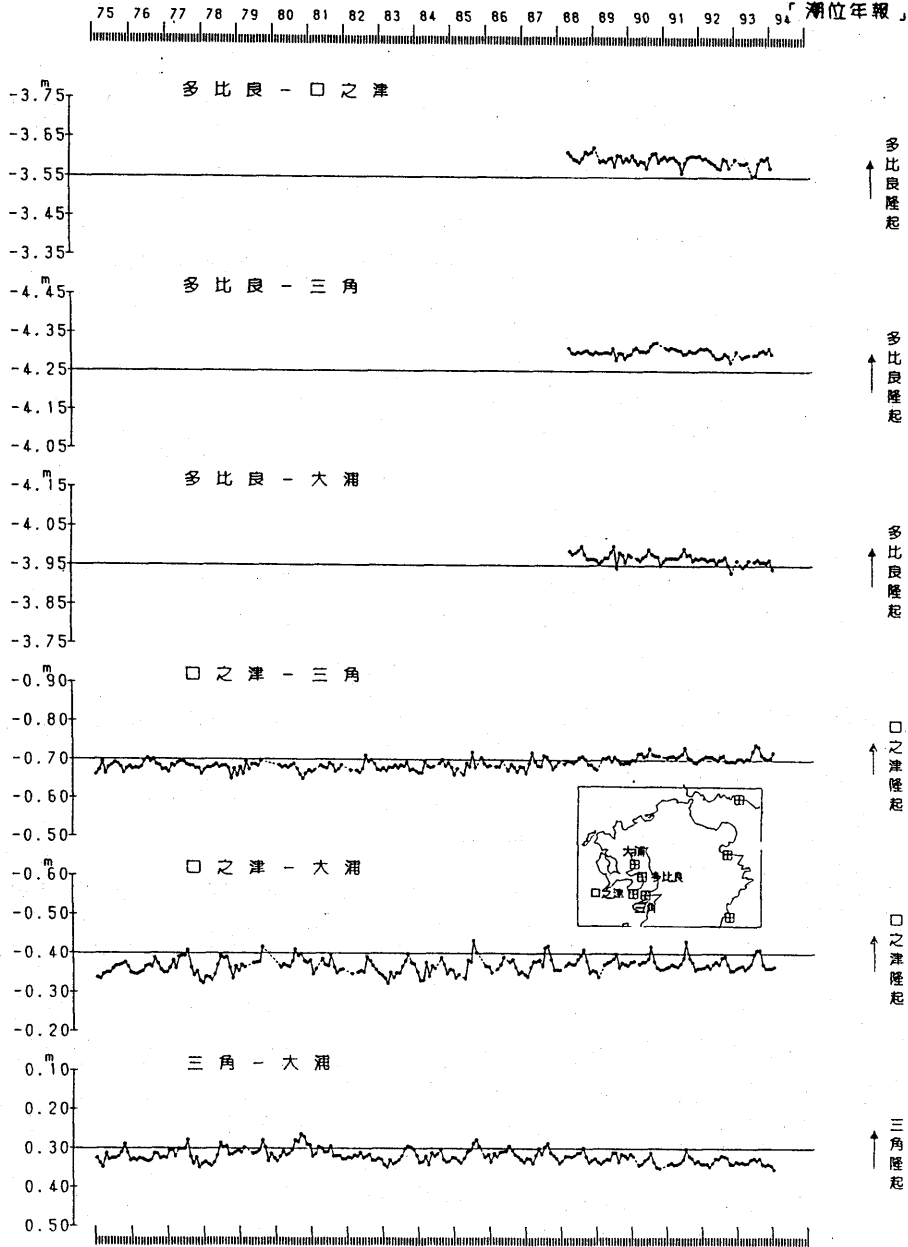
(最終観測 1994年 5月 31日 1時 - 7時)

1994年5月12日より6時間の観測を実施  
 GPS受信機: TRIMBLE-4000SSE (93.5.12~)  
 基線解析ソフト: Triavac Plus (Rev. E) 10月下旬より1点を固定し計算 (FIX解採用)  
 Triavac Plus (Rev. E) 94年5月12日以降

建設省国土地理院

第 3 図 雲仙地区GPS連続観測結果 (比高)

Fig. 3 Continuous height change observation with GPS at Mt. Unzen



第 4 図 多比良・口之津・三角・大浦各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 4 Differences in monthly mean sea level between Taira, Kutchnotsu, Misumi and Oura tidal stations.